

01 大崎市



世界かんがい施設遺産「内川」。
美しい景観を楽しむことができる。

人口(令和2年国勢調査):12万7330人
面積(参考):796.81平方キロメートル



地域特性と課題

大崎市は、宮城県の北西部に位置し、2006年3月31日に古川市、松山町、三本木町、鹿島台町、岩出山町、鳴子町及び田尻町の1市6町が合併し誕生した都市である。鳴瀬川が広大な平野部を流れ、肥沃な水田農業地帯「大崎耕土」を潤し、この地域で育まれてきた農業システムや農耕文化などが、2017年に東北地方初の世界農業遺産として国際連合食糧農業機関から認定を受けている。

線と東北本線、東西に陸羽東線の鉄道網と南北に東北縦貫自動車道と国道4号、東西に国道47号、国道108号及び国道347号の道路網があり、太平洋と日本海、東北と首都圏を結ぶ交通の要衝となっている。

大崎市の産業別就業人口をみると、基幹産業と言われる農業がメインの第1次産業では、就業人口や総生産額ともに減少傾向にある。

一方、高度経済成長長期に立地が進んだ電子部品製造業や近隣への自動車

製造業の進出により第2次産業が就業人口、総生産額ともに増加している。さらに、大型店舗等の集積や鳴子温泉の観光関連産業により、第3次産業についても就業人口や総生産額は伸びている。

地域の資源については「ラムサール条約湿地」である蕪栗沼・周辺水田(2005年登録)、化女沼(2008年登録)は、主にガン類の越冬地として登録。

「蕪栗沼・周辺水田」については、周辺の農地(水田)を広く含む条約湿地

として、世界で初めて登録名に「水田」を冠した湿地となった。

鳴子温泉郷(鳴子、中山平、鬼首、東鳴子、川渡)は、わが国にある10の泉質のうち7種類を有しており、国民保養温泉地の指定を受けている。

地域の課題としては、他の地方都市と同様、人口減少であり、特に、2020年から2045年にかけて生産年齢人口(15歳〜64歳)は5.3%減少すると予想され、生産年齢人口の確保が大きな課題となっている。



1 地域農産物等のブランド化。



2 CSV やツアーリズム等での屋敷「居久根」保全。
3 市の鳥「マガン」



SDGs 推進に向けた取り組み

大崎耕土GIAHSを核とした持続可能な地域社会づくり

世界農業遺産(GIAHS)とSDGs目標を連動させ、喫緊の諸課題に対し、多様な主体の参画により、カーボンニュートラルな食料生産、生物多様性の向上(ネイチャー・ポジティブ)、グリーンインフラによるレジリエンス、GIAHS ツーリズムなどに関し、「人」、「知恵」、「資源」のつながりの再構築により、新たな付加価値を創出し、持続可能な地域づくりを実現する



4 市民セミナーでの普及啓発。(ワークショップ)

interview



大崎市の未来都市に向けての取り組み

モデル事業応募のきっかけや要因

2018年12月に「大崎耕土」が世界農業遺産に認定され、SDGsとのつながりが深いのでこの2つをまとめてまちづくりのきっかけにしたいと思いい応募しました。

選定されて良かった点

よかった点は3つあります。

- ①資源のありがたみに気づくことができ、この資源を守って生かすきっかけにしなければならぬこと。
- ②伝統文化をしっかりと継承できる体制ができたこと。
- ③水害対策につながっていくこと。

大崎市が抱える課題

- ①人口減少
- ②高齢化
- ③農業の担い手不足(水田を守っていく農業人材の確保)
- ④気候変動
- ⑤有害鳥獣の増加

⑥世界農業遺産を核としたまちづくり(市民にとつては、豊かな自然環境のある暮らしが当たり前であることから、この環境の希少性を実感しにくいそれに伴い、制度の認知度が低い)

課題に対する取り組み

〈取り組み①「大崎ネイチャー・ポジティブ定量化事業」〉

- ・屋敷林(呼称:居久根(いぐね)には木や植物が多く、クモやカエルなどの生物が数多く住んでいます。田んぼにいる生物と食物連鎖を起します。陸の生物が害虫を食べることで、「無農薬」を進めることができます。その調査を進めています。居久根のおかげで水田に良い影響があります。
- ・屋敷林は防災や減災の機能もあります。
- ・屋敷林は生物多様性にも効果があります。(在来種の保存、気候変動にも耐えられる)

〈取り組み②「有機農業とDX化」〉

- ・国から補助金をもらい「モデル地域」として「アイガモロボ」の実証実験を行ってきました。
- ・アイガモロボは太陽光発電パネルを搭載しておりこの動力で水中で田んぼの泥をかき回すのでそれにより抑草効果があります。
- ・その他、次の取り組みも行っています。
- ・自宅で水田環境がわかるシステム(センサーによる環境モニタリング)
- ・草刈り機の自動化

〈取り組み③「大崎GIA HS・SDGsプラットフォーム形成事業」〉

- ・ステークホルダー間の共同・事業推進プラットフォームで、金融機関・商業関連事業者も参加しています。
- ・NPO法人「未来産業創造おおさき」を中心として、企業の参画を促しているところです。

ステークホルダー間の調整について、難しかったこと

短時間の会議で地域の課題を出し合いましたが、各団体による取り組みが多岐に渡っているため、その共通テーマを探し出すことに苦慮しました。

共通の認識を持ち、一体となって取り組むことが重要だと考えますので、今後の調整を引き続き進めていく必要があると感じました。

取り組みにあたり障壁となったもの

住民への周知です。SDGsだけでなく、生物多様性の言葉が難しいため、住民にはわかりにくいようです。

職員や市内全体へはシンポジウムを開催するなどして告知・啓発しています。

また、市民へはポイント制度などを使って市民が参画してくれる仕組み(インセンティブ)が必要です。市民はSDGsを推進する応援団です。

取り組みの他地域への展開

語り部やボランティアを中心に、地産地消することとSDGsの達成に貢献するのだというのを伝えていきたいです。

企業との関係については、SDGsは大企業が取組みもの、とのイメージもあり、地元中小企業にSDGsへの参加のメリットを感じていただくことが課題と感じています。

屋敷林(居久根)の保全は、生物の保全、環境保全、CO₂削減、減農薬、ブランド米、環境教育、居住者の誘致、食料の確保へつながるなど、市民生活を豊かなものにする循環につながりますので、しっかりとこの取り組みを進めていきたいです。

また、この循環の仕組みを住民のみならず、興味を持つ人々に情報を伝えながら、SDGs未来都市の事例として国内外に広めていきたいと思っています。

将来的な自走に向けた取組

- 本事業の推進団体やステークホルダーに共有を図り、成果の活用に向けたノウハウ提供と支援の実施
- 世界農業遺産ブランド認証制度における企業・団体等の活動を認証する「コト認証」を制度化し、ステークホルダーや関連事業者とのビジネスマッチングを推進

SDGsの達成に貢献する田園都市 宝の都(くに)・おおさきの実現へ

2 ラムサール条約登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」マガンのねぐら入り。

3 世界農業遺産「大崎耕土」の生きものモニタリングの様子。

4 国民保養温泉地「鳴子温泉郷」

1 屋敷林「居久根」や水田でのネイチャーポジティブ。